

式 辞

春の訪れを告げるかのように、木々のつぼみも大きく膨らむ季節を迎えました。今日の佳き日に香川県教育委員会、香川県議会、笠田高校 同窓会などご来賓の皆様方、並びにご家族の皆様のご臨席を賜り、ここに令和七年度卒業証書授与式を挙行できますことを、心から感謝申し上げます。

只今、卒業証書を授与しました九十三名の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。今、この時を迎え、皆さんの心には様々な思いが交錯していることであろう。私たち教職員も、皆さんとの三年間を振り返り、感慨深い気持ちでこの瞬間を迎えています。

ご家族の皆様におかれましては、これまで長きにわたり、深いご理解と温かいご支援を持ってお子様を見守ってこられましたことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

本日、晴れて巣立っていく皆さんは、校訓「至誠 慈愛 勤労 剛健 自律」を胸に、日々の実習や研究、学校行事や課外活動に全力で取り組み、大きな成長を遂げられました。特に、本校で農業科、家庭科の専門性の高い学びを深めてきたことで、「命を育てること」「暮らしを支えること」の尊さを実感したことであろう。

体育祭や笠高祭で、クラスや学科が一丸となって取り組み大いに盛り上がったこと。農業クラブ活動や家庭クラブ活動で、地域との交流や研究を重ね、課題解決に向け考察を重ねたこと。部活動や進路決定の場面などでも、仲間を支え、たたえ合い、切磋琢磨したこと。これらの経験は、他者を理解し、自己の生き方について考えることのできた素晴らしい体験です。私にとっても、皆さんとともに明るく楽しく過ごした日々は、大切な大切なひと時でした。

世界は今、大きな転換点にあります。ウクライナやガザだけでなく、世界のいたるところで紛争や抑圧、弾圧が続き、自由や平等、人権といった普遍的価値が揺らいでいます。2年前の人権講演会を覚えていますか。近年、紛争の数は増加傾向にあり、紛争の影響で難民となった人々には、十分食糧がいきわたらず、必要な医療さえも受けられない状況を知り、「知らないこと」「知ろうとしないこと」の「罪」、いわゆる「無知の罪」に自戒の念を持ちました。このようなことは、どこか遠い国のことだけではありません。世界経済にも波及し、石油などの資源の高騰で、物価が上昇し、我々の生活に影響しています。また、各地で猛暑日を更新しているように、気候変動問題は深刻です。大災害を引き起こすとともに、農作物の品質低下や収量減少といった影響も及ぼしています。

社会変化の進展が著しい世の中であって、最も重要なのは、我々の生きる知恵とそれを支える人間性です。皆さんは、直接触れ、その場で見て、考え、実践するという実学を通じて学んできました。農業科では「生み出す力」を、家庭科で「支える力」を身につけた皆さんは、現場を知る実践者として、新しい発想と技術で未来を切り開いていく存在となることであろう。かの吉田松陰先生は、「学は人たる所

以（ゆえん）を学ぶなり」と言っています。「学問とは、知識や技術の習得だけではなく、人としていかに生きるべきか、を学ぶことである。」との意味です。最大限のまごころを持って、謙虚に他者の考えや多様性を受け入れ、他者と協働できる人間性こそが、ゆるぎない基盤となるのです。

これから皆さんが歩みだす社会は、自由の大海であり、他者からの束縛や干渉を受けづらい場所です。自らの価値観で自分の言動を決定できる、まさに自由。しかしながら、自由には必ず責任が伴います。自分の判断に間違いがないか、その判断の責任が取れる覚悟があるか。その覚悟があつてこそ、真の自由が成り立ちます。迷った時に、助けてくれるのはともに学んだ仲間であり、家族です。吉田松陰先生は、「朋友（ほうゆう）相交（あいまじ）はるは善導を以て 忠告すること固（もと）よりなり」、つまり「友達には真心をもって交わり、善い方に導くようにすすめることは言うまでもない」という言葉を残しています。よい助言とは、課題や改善点を含めて行うもので、皆さんのためを思つての言葉です。助言ができ、受け入れることができてこそ、校訓である「自律」が叶います。

皆さんの進むべき方向のゴールは、進路先である会社や学校ではありません。その先にある、地域貢献であり社会貢献です。笠田高校で地道にこつこつと努力を重ねてきたという誇りを持ち、地元三豊・観音寺の明るい未来をつくる人になって欲しいと切に願っています。そして、時に母校笠田高校に思いを馳せてください。

寂しいけれど、お別れの時間が参りました。

最後に、皆さんの輝かしい未来に幸多きことをお祈りするとともに、本日ご臨席の皆様方のますますのご健勝とご活躍を祈念し、式辞といたします。

令和八年三月二日

香川県立笠田高等学校長 山田 知子